



令和7年度 学校だより

つなぐ

翠輝学園 つくば市立

みどりの南小学校

第42号

発行日 R7.12.18

本が好きな子を育てる

4年「学校訪問ブックトーク」

12月3日(水)2~4校時、4年生で「学校訪問ブックトーク」が行われました。「ブックトーク」とは、「読んでみたい」「読書って楽しいな」と思ってもらうことを目的に、特定のテーマに基づいて複数の本を選び、順序立てて紹介する活動。今回、学校で市中央図書館の事業に応募して実施しました。市図書館の方2名が来校し、選りすぐりの本を紹介してくれました。この日のテーマは「動物『世界最大 体長30メートル以上』」で、子供たちに動物に関する、素敵なお話やユニークな図鑑について、本のあらすじや著者、主要な登場人物も含めて、その本の魅力を伝えてくれました。また、ゾウが主役の絵本の読み聞かせも。最後は、子供たちも実際に本を手に取り、様々な本にふれることができました。



「進んで読書」はもう一步

本校「学校教育に関するアンケート」結果

以前実施した児童・保護者へのアンケートにおいて「(児童が)進んで読書をしている」の肯定的な回答は比較的低く、課題となっています(学校だより29・30号)。児童では唯一80%以下(74.3%)の項目で、保護者では約60%でした。これは本校だけの傾向ではなく、文科省の「全国学力・学習状況調査」(全国学テ)でも、今年度、「読書が好き」に肯定的な回答をした小6児童は過去最低の69.8%で、読書離れが進んでいると報道されました。スマホやゲームの時間が増える中、「読書」は全国的な課題となっています。



読書が子どもの未来を変える!

「読書」と「学力」

読書については、文科省も推進しており、全国学テのアンケートでは「読書を好きか」「読書の時間数」「家庭の蔵書数」を調査し、学力との関連を示しています。

さて、学力との関連では、読書で身に付くものが「語彙力(ごいりょく)」です。語彙力とは、単に多くの言葉を知っているだけでなく、それらを実際のコミュニケーションなどで効果的に使い分ける能力。これは現在、本校で実施している「学力の基盤調査(たづじんテスト)」(学校だより31・34号)にも含まれる能力です。正しく言葉を使い分けることは、国語だけでなく、様々な教科の学力向上につながります。そして社会人としても必要な力です。(参考サイト:「本を読む子は本当に賢い!」家庭での読書が子どもの学力を決める科学的根拠)

読書を楽しむ 読書に親しむ

みどりの南小図書館「みなほん」の利用

茨城県では、小中学生の読書意欲を高めるため、読書に積極的に取り組んだ児童を表彰し、家庭や地域の協力を得ながら、読書の楽しさや喜びを広げていくために「みんなにすすめたい一冊の本推進事業」を実施しています。小学校では4~6年生が対象。1年間に50冊の本を読んだ児童に県教育長が、3年間に300冊の本を読んだ児童に知事が賞状を授与しています。本校でも昨年、多くの子が表彰されました。

また、本校では、司書の入澤直先生と国語主任の額賀聖人先生が中心となり、様々な「みなほん」(本校の図書館の名称)イベントを企画したり、図書館だより「みなほんnews」を発行したりして、一人でも多くの子供たちが読書に親しむよう取り組んでいます。

しかしながら、文字を読むのが苦手な子もいます。そこで、まずは文字が少ない本を読んでみたり、自分が好きな図鑑やスポーツの本を読んでみたり、学習漫画を読んでみたりするのはいかがでしょうか。保護者の皆様も子供の頃、「○○のひみつ」や「ドラえもん」等の学習漫画などを読まれた方も多いと思います。



本を読むと、成長するフク!

もうすぐ始まる冬休みを利用して、学校の本を借りて読んでみませんか?

ブックトークで紹介した本は全て、みなほんにあります。冬休みの貸出は12月23日(火)まで。

本が好きな子が増えることを期待しています!